

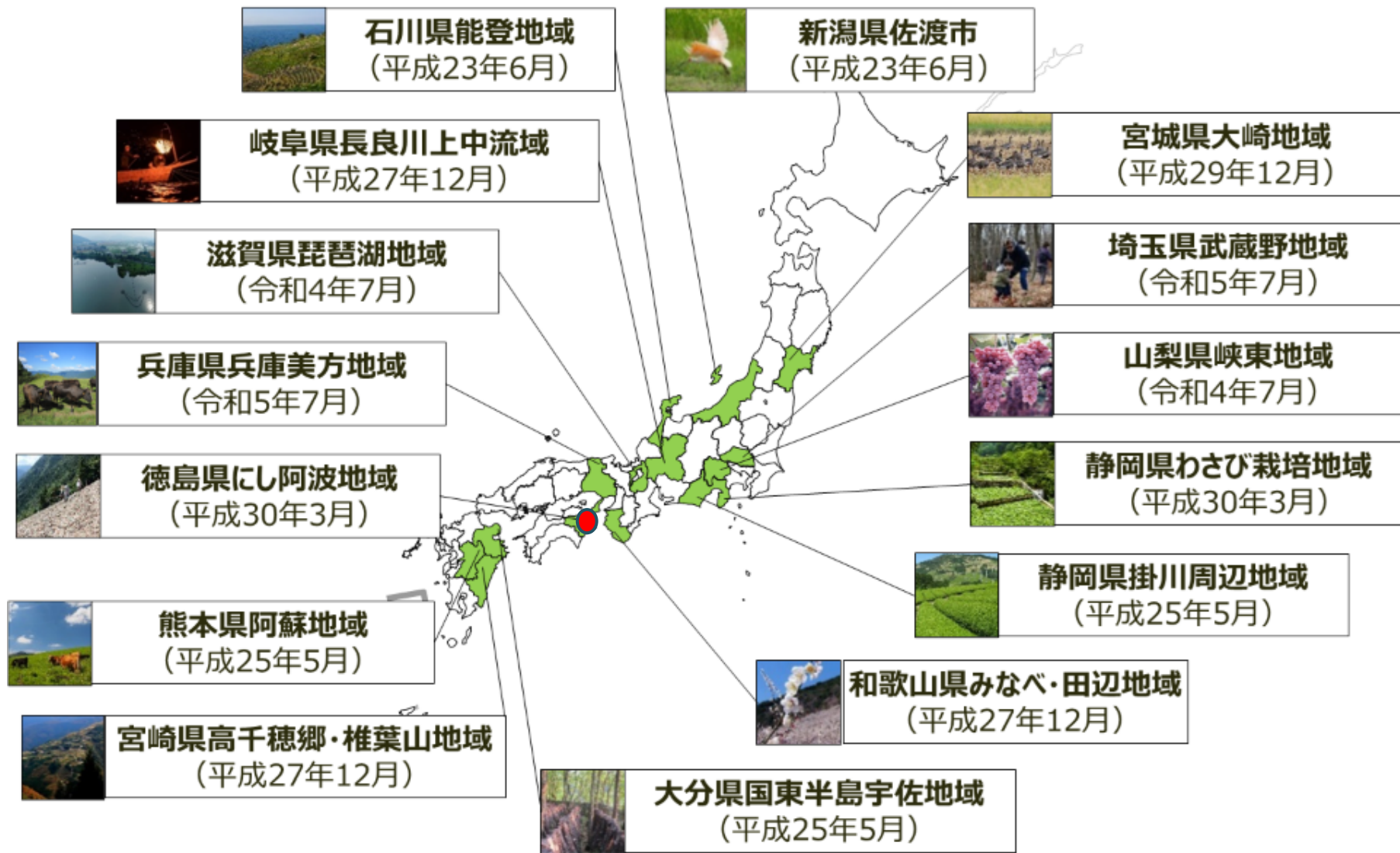
藍栽培による家賀傾斜地集落の再生プロジェクト 徳島県つるぎ町

Keka Slope Village Revitalization Project through Indigo Cultivation, Tsurugi Town, Tokushima Prefecture, Japan



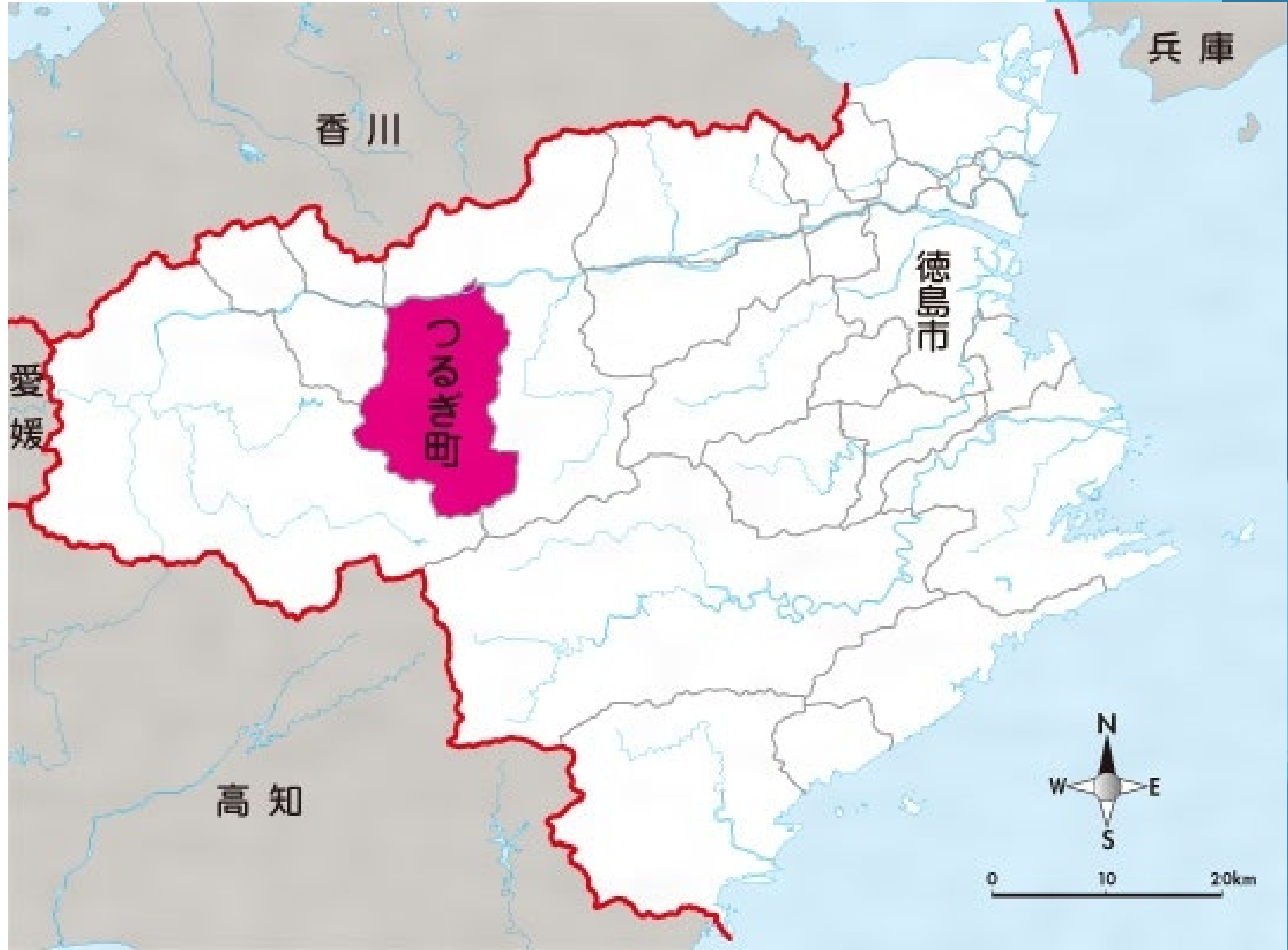
環境人類学博士 林博章

Ph.D (Environmental Ethnology) Hiroaki Hayashi



日本の世界農業遺産と徳島県の位置

World Agricultural Heritage Sites in Japan and Location of Tokushima Prefecture



徳島県つるぎ町の位置

Location of Tsurugi-cho, Tokushima Prefecture

つるぎ町の家賀集落の位置

Location of keka village in Tsurugi Town

つるぎ町役場

Tsurugi Town Hall





にし阿波の傾斜地農耕システムとは、



斜めで生きる知恵

「にし阿波」と呼ばれる徳島県西部の美馬市、三好市、つるぎ町、東みよし町には、標高100から900メートルの急峻な傾斜地に200近くの集落が点在しています。いずれも急峻な傾斜地に位置し、場所によっては斜面40度にもおよびます。斜面を利用する農業では、段々畑のように平面を造成することが一般的ですが、これらの地域では傾斜のまま農耕を行ってきました。そのために、独自の技

や知恵を培って、自然を守り、生命を守り、集落を守ってきたのです。この400年以上にわたり継承されてきた山村景観や食文化、そして農耕にまつわる伝統行事などの全てが「傾斜地農耕システム」です。このシステムは、未来に向けても持続可能なものと認められ、食と農の危機的状況や生態系の破壊など世界が直面する問題解決にもつながるものと評価されました。

斜めの美

険しい山々と深い深谷が繰り返す斜面には、民家と畑が張り付くように立地し、世界でも珍しい独特のランドスケープを創り上げています。

斜面40度は
ココ!!

★にし阿波の傾斜地農耕システムは2018年にGIAHS(世界農業遺産)に認定

Nishi Awa sloping land farming system was recognized as a GIAHS (Global Agricultural Heritage Site) in 2018

家賀集落の特徴

Characteristics of keka Village



日本最大級の傾斜地集落(標高100~600m)

One of the largest sloping villages in Japan (100-600m elevation)

向かいの山から見た家賀地区。急斜面に沿うようにして、いくつもの民家が点在する「フラ」ならではの景観だ



世界農業遺産となった急傾斜地集落の再生

西日本第2位の高峰・剣山の北麓に位置する美馬郡つるぎ町。その一角にある家賀地区は標高差約400mの傾斜面に展開する国内最大規模の急傾斜地集落である。かつては100軒ほどの民家があり、独自の歴史と文化を育んできたが、現在は、その多くが空き家となり、存続すら危ぶまれるようになった。その集落を再生したいと、2018年(平成30)に誕生したのが「家賀再生プロジェクト」。昔ながらの農耕システムを活かして限界集落を再生しようと呼びかけている。



「フラ」で育ててきた方がこの集落を築き上げた。農耕の定時や収穫時に応じて駆け付けられることもある(左下)と村谷さん



世界農業遺産「にし阿波の傾斜地農耕システム」ブランドに認定されている「藍粉」を使った商品と、家賀地区で作られている「竹筒晩茶(茶)」。※竹筒に入れて発酵させた番茶の一種

さまざま縁がつながり 集落の魅力が伝わっていく

「貞光で生まれ育ったとはいえ、農業とは無縁なメンバーばかり。本気でできるかどうか不安だったが、当時を振り返る村谷さんだったが、集落の人たちの助けを借りながら、標高520mの高地に初年度は8アールの斜面を開墾し、翌2019年(令和元)6月に藍の苗を植えた。ちょうどその頃、藍の抗菌作用や免疫力アップといった効果が実証されたため「食べられる藍をつくらう」と無農薬で化学肥料も使わずに栽培。粉末加工して利用を呼びかけたところ、使いたいという声が相次ぎ、「藍粉」として販売する。ここに、県内企業と連携し「食べられる藍」として半田うめんや和菓子のゆず味噌、ジェラートなどのさまざまな形で商品を開発し販売した。

「この集落を守りたい」 はじまりは数人の熱意から

徳島県西部、吉野川流域の山間部では、古くから山の斜面に点在する集落を「フラ」と呼んできた。つるぎ町貞光の山間、家賀地区は、200以上もあるという「フラ」の一つ。周囲を森林に囲まれ、山上部に雨水を蓄える水溜り池を持ち、民家や茅場、畑地が交互に重なり「フラ」ならではの独特な景観を創り出している。

1960年代には数百人が生活していた家賀地区も、年々高齢化が進み、現在は数十人の集落となった。家賀地区が夫の出身地だったことから、長年、事あるごとにつるぎ町内の自宅から集落へ足を運んでいた村谷京子さんは、集落を訪れるたびに次第に寂れていく様子に心を痛め、過疎化を止めるために何かできないかと考えていたという。



家賀地区の土壌には結晶片岩が混ざっている。多孔質のため水はけが良く、鉄分も豊富になるといふ

ところが、瞬く間に注目されるように。昨年には、シンフォール・ルチオチョコレートブランドでも藍粉を使った新商品が誕生するなど、県内外の企業との連携や協業も増えてきた。今では集落に残る茶畑を活用した新たな商品なども生まれている。

また、集落出身の方が活用してほしいと貸与された茅葺きの家をプロジェクトの拠点として、「農耕システム」を含めた家賀地区の魅力伝える観光ツアーの企画や視察の受け入れ、農福連携(農業と福祉の連携)の取り組みなど、さまざまな取り組みが評価され、2021年(令和3)には、地域資源を活かし、創意工夫のある活動を行っている個人や団体を表彰する「つくしま集落再生表彰」を受賞した。

「こんなに急にさまざまな方面から注目されるとは思ってもいなかった」と話す村谷さん。最近では移住したいという相談まで受けるようになったと笑顔を見せる。「この集落では3000年も前から自然環境を最大限に活かしながら生活してきた。その魅力を次の世代に引き継いでいけたら、環境と共生してきた集落に惹かれた人たちへと、歴史と文化をつなぐ活動は続いていく。」



耕作放棄地の手入れからスタートしたプロジェクト。農務力の強い手を数多く活用するの先人の知恵

その思いを後押ししたのは、2018年、家賀地区を含む「にし阿波の傾斜地農耕システム(以下「農耕システム」)」が「世界農業遺産」に認定されたというビッグニュースだった。場所によっては傾斜40度にもなる畑に、茅などの敷き草によって土壌流出を防ぐ農耕システムは、日本の農業の原点そのもの。「この農耕システムが家賀地区を再生するきっかけになるのでは」と考えた村谷さんは、「農耕システム」の論文の著者であり、剣山系の農文化や阿波県立鳴門洞瀬高等学校教諭の林博章さんに相談した。大正時代から昭和初期までは、家賀地区では藍の栽培が盛んだったという話を聞き、伝統的な「農耕システム」を使って藍を栽培することを決意。思いを同じくする仲間を募って、同年「家賀再生プロジェクト」をスタートさせた。

※古代の朝廷祭祀を担当した忌部氏に奉仕した集団



上/プロジェクトの拠点となっている茅葺きの家。室内には囲炉裏がある
右/このプロジェクトに欠かせ



お問い合わせ
家賀再生プロジェクト
徳島県美馬郡つるぎ町貞光家賀道上474
メール:kekaisaiei.p@gmail.com



Facebook

標高500m地点で無農薬・無化学肥料における 藍栽培による集落再生

— Indigo cultivation without pesticides and chemical fertilizers at an altitude of 500 m for village revitalization



カヤ・落葉を利用する自然循環農法で食べる藍を栽培

Cultivation of edible indigo through natural recycling agriculture using
kaya and fallen leaves



藍商品のブランド化

Branding of indigo products



藍クッキー
Indigo cookie



藍粉 Indigo powder



藍そうめん

Indigo somen noodles



藍だんご

Indigo Dango



藍ビール

Indigo beer



藍チョコレート

Indigo chocolate



藍晩茶

Indigo Traditional Tea



藍コンクリートの芸術作品 広島ヒルトンホテル

Indigo Concrete Works of Art

Hiroshima Hilton Hotel



家賀集落の案内ガイドを養成
Trained guides for Keka village



春の豊穰祈願祭

Spring fertility festival



藍の定植と豊穰祈願の箱回し

Planting indigo and Traditional performing arts for praying for a good harvest



肥料となるカヤ刈り体験(サステイナブル体験)

Kaya harvesting experience to use as fertilizer

Sustainable Experience



農福連携による農作業

Agricultural work through agricultural and welfare cooperation



徳島大学・つるぎ高校等との連携事業「まちづくりファクトリー」
Collaborative Projects with the University of Tokushima, Tsurugi High School, etc.
Implementation of "Community Development Factory"

家賀集落に修学旅行生を受け入れて農業体験

Accepting students on school excursion to keka village to experience agriculture





2023年10月に総務省の全国表彰

National Award from the Ministry of Internal Affairs and Communications
in October 2023



2024年4月に農業体験宿泊施設 家賀の郷『清笹』がオープン

Agricultural experience accommodation in April 2024

Keka no Sato "Kiyosasa" opens




日本初の傾斜畑オーナー制度を開始(家賀ドリームファームの挑戦)
Launched Japan's first sloping field owner system.

Keka Dream Farm's Challenge

皆さま、家賀集落でお待ちしています。

We look forward to seeing you all in Keka village.



家賀再生プロジェクト代表・朽谷京子

Kyoko tochitani, Representative of Keka Restoration Project